

B108

水素エネルギー社会に向けた福岡の挑戦 ～福岡水素戦略(Hy-Lifeプロジェクト)～

(福岡県 商工部) 丸林 啓太*

1. 本県における水素エネルギー開発の位置づけ

福岡県では、地域の優位性を活かした産業の育成・拠点化、いわゆる産業クラスター政策を展開しており、重点项目として「システム LSI(半導体)」「ロボット」「バイオテクノロジー」「ナノテクノロジー」「自動車産業」「デジタルコンテンツ」の育成・拠点化を進めている。

「水素エネルギー」に関しては、本県に所在する九州大学の知的資源を活かした新産業の育成・拠点化を推進すべく、2004年8月から産業クラスター政策として取組を開始した。

2. 水素エネルギー分野における福岡の強み

水素エネルギー分野における本県の最大の強みは、九州大学の知的資源である。

九州大学では、2003年度から2007年度に、文部科学省21世紀COEプログラム「水素利用機械システムの統合技術」を実施するとともに、研究教育活動の中核拠点として学内共同利用施設「水素利用技術研究センター（現水素エネルギー国際研究センター）」（センター長：佐々木一成 教授）を設立するなど、水素エネルギーに関する先駆的な取組を行っている。

これらに加え、九州大学伊都キャンパスには、経済産業省資源エネルギー庁、（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構の支援のもと、産業技術総合研究所「水素材材料先端科学研究所」（センター長：村上敬宜 九州大学理事・副学長）が2006年7月に設立されるなど、水素エネルギーに関する世界的な研究開発拠点となっている。

3. 福岡水素エネルギー戦略会議

本県の産業クラスター政策は、産学官連携組織を中心、具体的な取組を進めることとしている。

水素エネルギーについても、本取組の中核推進組織とすべく、2004年8月、本分野における我が国初の産学官連携組織「福岡水素エネルギー戦略会議（以下「戦略会議」という。）」（現会長：黒木啓介 新日本製鐵株式会社代表取締役副社長）を、144企業・機関の会員で設立した。

2009年8月末現在、戦略会議には、設立当時の約4倍となる552企業・機関が会員として参画しており、水素エネルギー分野における日本最大の産学官連携組織に成長している。

4. 福岡水素戦略(Hy-Lifeプロジェクト)

戦略会議では、2004年の設立以来、産学官が連携し、水素エネルギーに関する総合的な取組を進めてきた。

これらの取組をさらに加速するため、2008年2月、本戦略会議の今後の取組方針として、「福岡水素戦略（Hy-Lifeプロジェクト）」を取りまとめた。

「福岡水素戦略（Hy-Lifeプロジェクト）」は、九州大学を中心とした世界最先端の研究開発家庭用燃料電池を集中的に設置する世界最大のモデル都市「福岡水素タウン」を始めとした先導的な社会実証

福岡水素エネルギー人材育成センターにおける全国唯一の水素人材育成

水素エネルギー製品研究試験センターを中心とした水素エネルギー新産業の育成・集積

「水素先端世界フォーラム」の開催などを通じた世界最先端の水素情報拠点の構築

を柱に、水素エネルギーの開発・普及を総合的に推進する世界唯一の取組である。



Fig. 1 Fukuoka Hydrogen Strategy "Hy-Life Project"

5. 水素エネルギー社会に向けて

化石燃料に依存した社会システムには限界が近づいている。環境と開発を両立させる「持続可能な発展」を実現するためには、化石燃料から脱却した新たな社会システムを構築することが必要不可欠である。

福岡県では、国や産業界、学界とも連携し、水素エネルギー社会の構築に向けた取組を更に推進したいと考えている。

なお、戦略会議の最新情報は、ホームページ (<http://www.f-suiso.jp/>)において逐次公開している。ご参照いただければ幸いである。

*marubayashi-k6400@pref.fukuoka.lg.jp